



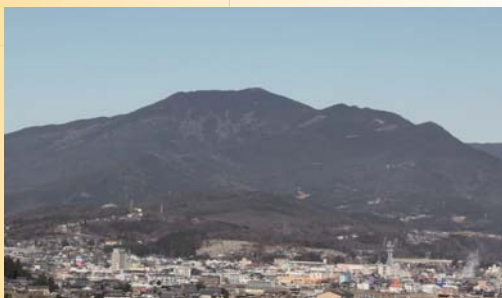
もてなしの心で語る わが街

えな自慢

えな自慢
19

笠置山

数多くの伝説が残る山



▲阿木川ダム付近から望む笠置山

ひとくちメモ

笠置山山頂の笠置神社社殿裏側のがけ下には、灰白緑色したヒカリゴケがある。このヒカリゴケは、レンズ状の細胞に入る光を屈折して反射するため、ヒカリゴケと呼ばれ、県の天然記念物に指定されている。

市の北部に位置し、笠置町、中野方町と中津川市蛭川にまたがる標高1,128[㍎]の山。恵那山とともに、東濃の名山として古くから親しまれてきた。10世紀後半に在位した花山天皇が京都の笠置山に似ていると言われたことから、その名前が付いたと伝えられている。

登山道が整備されており、気軽に登ることができる。山頂の笠置神社には、雨ごいの神でもある笠置大権現が祭ってある。頂上付近にある物見岩からの眺めは素晴らしく、恵那、中津川が一望できる。また、ヒトツバタゴ、ヒカリゴケといった天然記念物や、超古代の遺跡、文化財などがある。中腹の望郷の森には、キャンプ場やマレットゴルフ場が整備されている。

えな自慢
20

大平の福寿草

春を告げる大群生地



▲大平の福寿草

ひとくちメモ

大平の福寿草のもう一つの説として、1570（元亀元）年の上村合戦で武田軍の美濃侵略の時、武田勢が福寿草を持ち込み、それが自生したという説もある。

福寿草は、日本では北海道から九州にかけて分布し、初春に黄色い花を咲かせることから元日草や朔日草の別名を持つ。上矢作町の達原・大平地区には、約40[㍎]にわたり福寿草の自生地がある。この自生地は、今から300年ほど前に大平地区の先祖が、赤石山系から持ち帰り移植したものとされている。開花時期は毎年3月中旬から4月上旬。最初は中央に大きな花が咲き、順次下枝へと小さな花が咲いて移っていく。開花期間中は一般開放され、多くの人が訪れる名所となっている。



次号は3月15日号

発行日は3月15日(月)です

広報えな No.123

2010年(平成22年)

3月1日発行

発行 恵那市役所／編集 企画課広報広聴係

岐阜県恵那市長島町正家一丁目1番地1 ☎26-2111 / FAX25-6150

http://www.city.ena.lg.jp/ ✉info@city.ena.lg.jp

『広報えな』3月1日号、1部当たりの印刷経費は約11.6円(税込み)です。



恵那市安心安全メール配信システム

登録用QRコード

☐問い合わせ 防災対策課(内線317)

『広報えな』は環境に優しい再生紙を使用しています。



この印刷物は石油系インキではなく、地球に優しい大豆油を使用したインキで印刷されています。